

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ意見まとめ

	まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ グループ討議記録		
地区	形原地区	回数	第2回
日時	2022年9月10日(土) 13:30-16:30		
参加者数	31名(第1回、第2回のみ参加の中学生4名を含む)		

1. 課題解決に向けた視点について

■視点ごとの意見

① 多様な人々との交流

公民館は若い人たちの利用促進を図ることが必要だ。

- ・公民館のように高齢者の利用が多い施設においては、若い人たちの利用促進を図ることが必要。

公民館は多世代交流が行えるよう整備をしても、離れた地区の若者が来るとは思えない。

- ・公民館を多世代交流が行えるようにより良く整備したとしても、距離の離れた地区の中高生達が徒歩や自転車を使って来るとは思えない。

現状の公民館は利用が多く、予約をしないとすぐには使えない。

- ・公民館では行事やクラブ活動(レクリエーション)による利用も多いため、部屋が空いておらず予約しないとすぐには使えない。

今はなくなったが、昔は公民館などの公共施設でお葬式などが行われていた。

- ・昔は公民館などの公共施設で地域のお葬式などを行うなど、地域の人が集まる場所だったが今はそのような習慣もなくなった。

地区集会所がバランスよく整備をされており、町内会の寄り合いなどで利用されている。

- ・地区の集会所は数も多く、バランスよく整備されている。町内会の寄り合いも集会所を利用している。

蒲郡市は情報発信が苦手だと感じる。

- ・蒲郡市は全体に「情報発信」が苦手だと感じる。

② 子育てしやすい環境づくり

西部子育て支援センターを併設している形原北保育園は駐車場が不足している。

- ・支援センターが併設している形原北保育園は駐車場が不足している。

保育園の駐車場が少ないため、親同士のコミュニケーションが減少している。駐車場にベンチを置くのは有効だと思う。

- ・ 保育園の駐車場が少ないため、保育園の送迎時に母親同士が立ち話しにくい雰囲気がある。それが、コロナ禍でさらに立ち話をしにくくなって、親どうしのコミュニケーションも薄くなっている。駐車場にベンチがあるだけでもコミュニケーションを活性化するのに有効だと思う。

形原北小学校と形原北保育園は隣接しており、相互連携が必要だ。

- ・ 形原北小学校と形原北保育園は隣接しており相互連携は必要である。

双太山公園は人気の遊び場で、親子連れが多い。

- ・ 双太山公園は人気の遊び場で、親が子どもを連れていくことも多い。
- ・ 双太山公園は岡崎から来るほど人気の公園になっている。眺めもいい。

ちびっこ広場を地域が維持管理できず閉鎖されている。維持管理の仕組みや方法について地域内で共有・議論されていないのではないか。

- ・ ちびっこ広場が閉鎖されている。地域で再建・維持管理できないだろうか。
- ・ ちびっこ広場は町内会の子ども会が市からの委託を請けて維持管理してきたが、子ども会がなくなると同時に維持管理が出来ず、市に返還されてしまい、ちびっこ広場がなくなってしまうことが起きている。地域住民にこうした仕組みが共有されていない現状もある。地域のなかで話し合いが行われていないのではないか？

親の所得で子どもの教育に格差が生まれぬよう、教育機会の充実を目指したい。

- ・ 子育てのしやすいまちづくり、特に親の所得が子どもの教育に影響しないよう教育の機会の充実を目指していきたい。

③ 子ども達の居場所づくり

子どもたちが自習・勉強する場所が少ない。

- ・ 形原には子ども達が自習する場所や勉強ができるような場所が少ない。

市内の子どもは幸田町や豊橋市などの図書館を利用している。

- ・ 蒲郡の子ども達は、幸田町や豊橋市など他市町の図書館を利用している。例) 豊橋のまちなか図書館は最近出来た施設でとても魅力的である。

小学校高学年や中学生は、小さな子どもが多い場所の利用が少ない。公民館に中学生が行きたくなるような環境があるとよい。

- ・児童館や放課後児童クラブもあるが、小さな子どもが多く小学校高学年や中学生は利用が少ない。公民館に喫茶店のような中学生が行きたくなる環境があったらいい。

部活や子ども会がなくなって小中学生の居場所が求められている。

- ・小中学校の部活が少なくなって中学生の居場所はますます求められる。クラブチームや習い事で忙しい子どもも多いがそうばかりでもない。

親が多忙で子ども会の役員を避けるので、子ども会の存続も危うい。

- ・子ども会は親が役員を嫌がって入らない家庭も多くなって、存続もあやうい状況。
- ・子供会や部活がなくなっており、親も大変忙しい。

子どもの居場所づくりも大切だが、見守る人材の確保も考える必要がある。

- ・夏休みなど長期休暇中の子どもの居場所づくりも大切だが、見守る人材の確保も考えていく必要がある。

中学生が自分たちで考えて取り組む機会として、地域のお祭りや職業体験は重要だ。

- ・地域のお祭りなどで縁日のお店を中学生にまかせると張り切ってやる。そんな場や機会が必要。
- ・学校の文化祭や行事も他の学年と取り組むことが少なくなった。自分たちで考えて自由に取り組める機会があるといい。
- ・中学生の職業体験はとてもいい。もっと機会を広げていくのに地域の企業も協力できるとよい。地域のファミレス、保育園、ガソリンスタンドなど、様々に考えられる。

④ 地域の活性化

地域のお祭りや行事が担い手がおらず開催できていない。伝統が途絶えてしまうことを危惧している。

- ・ちゃらぼこや厄年さんなどのお祭り行事が担い手がおらず開催できなくなっている。ちゃらぼこにも子供が参加しないし、伝える教え手も減ってきている。伝統が継承されないことが危惧される。

移住してきた人がお祭りなどに参加しやすくすることで活性化につながる。

- ・外から地区に来た人も地区の行事やお祭りに参加しやすくすることで、活性化していきんじゃないか。
- ・北浜では市外から移住した40代の方が積極的に地域ボランティアに積極的に参加していて活気がでている。

地域のつながり・交流のためにも、お祭りを子どもたちに伝えていく必要がある。一旦途絶えてしまうと再開するのは大変だ。

- ・お祭りの出し物などを子どもたちに伝える必要がある。祭りが地域をつくる。地域のつながりのためにも、お祭りは伝えていかなければいけない。
- ・生活はできるが、まちに暮らし楽しむ、つながりや絆のなかで生きていくことが、災害に強いまちにもなっていく。そのためにもお祭りは大切である。
- ・北浜地区は、神社が無いので集会所に立派な門松をつくって毎年飾っていた。そうしたことも途絶えてしまわないか心配。新しく来た人ばかりの地区にとって交流機会は重要だと思う。
- ・地域行事は一旦途絶えると、再開するのは大変だ。やり方も忘れてしまうし、協賛金も集まらなくなる。新しく来た人や退職した人が地域行事に参加する機会もないままになっている。

空き家が増えているので市の制度を活用して、移住者を呼び込んでほしい。

- ・空き家が増えているので、もっと移住者を呼び込んだらよい。
- ・市役所でも空き家のリノベーションに補助金を出す制度もある。

形原は住みやすい。地域の魅力を発信することで移住者は増えると思う。

- ・形原はスーパーも病院もあって住みやすいと思う。
- ・目の前で魚釣りができる。シーズンには遠くからたくさんの方がやってくる。
- ・そうした魅力を紹介しつつ、市役所や地域で空き家紹介や移住窓口があると移住者は増えると思う。地域に参加する窓口やきっかけも必要。
- ・自分も県外から移住してきたが、形原は「何もないところ」が一番の魅力だと思う。都会に比べて広々として余分なものがない。

⑤ 高齢者の活躍

男性高齢者の居場所が必要。

- ・特に定年後の男性の活躍の場があるとよい。社会との接点をつくり、そこに参加することができるようになるるとよい。ボランティアは心と体の健康の源である。
- ・高齢者の居場所も必要。特に男性高齢者はやることなく居場所がない人もいる。公民館の講座に参加できる人はいい。

町内会ごとに長寿会があるが、参加する人が減っている。もっとたくさんの人に参加してもらいたい。

- ・町内会ごとに長寿会があるが、「自分は年寄じゃない」という意識から参加される人が減っている。入っていない人が社会との接点が薄らぎ健康を害されている人もいる。そうした高齢者の方も心配だし、会員不足から長寿会そのものの存続がどうなるのか。も気がかりである。もっとたくさんの人に参加してもらいたい。

高齢者は行動範囲が狭く、公民館は近所の高齢者以外は利用しづらい。地区の集会所を利用することが多いが、地区によっては集会所も遠い人がいる。

- ・高齢者は行動範囲が狭く、移動はバスや徒歩になるため、地区の集会所を利用することが多い。現在の形原公民館は近所の高齢者以外はなかなか利用できないのではないか。
- ・7区、8区のエリアは広く、形原の北エリアの人達にとっては地区の集会所すら遠い。

⑥ 安全・安心

公民館は高潮浸水想定区域にあるため、建て替えのタイミングで内陸に移すほうがよい。

- ・公民館は高潮の被害予想区域に入っている。まだ新しい施設だが、建て替えのタイミングでもっと内陸に移すほうがよいかも。

春日通りと名鉄の交差点が危険であり、何らかの対策が必要。

- ・春日通りと名鉄との交差点の安全が心配。信号の設置は現実的ではないかもしれないが、何かしらの対策が必要だろう。

春日通りは車のスピードが速く通学に危険を感じる。一方、通学する児童・生徒は、迅速に横断してほしい。

- ・春日通りを走行する車のスピードが速く、通学中に危険を感じる。安全運転、減速運転を心がけてほしい。
- ・中学生は、横断歩道を迅速に渡ってほしい。

形原北保育園から三河鹿島駅までの道中は、車の往来が多く危険である。

- ・形原北保育園から遠方へお出かけする際の最寄り駅は三河鹿島駅であるが、駅までの道中車の往来が多くとても危険である。

通学路で危険な箇所がある。

- ・通学路の中にはグリーンベルトが細くガードレールもなく危険な箇所が多い。信号がない交差点もある。

車道・歩道が狭く危険な箇所があるので、整備してほしい。

- ・車道・歩道が狭いので公道の整備をしてほしい。
- ・車の通行によって、歩行者に危険な箇所がいくつもあるので、ゾーン 30 を増設したほうが良い。
- ・ベビーカーや高齢者など歩行者にとって危険な場所がある。
- ・学生、大人が自転車、サイクリング、通勤、通学するのに道が狭い。

形原地区は防犯カメラの設置を積極的に行っており、今後も推進していく予定。

- ・形原地区は防犯カメラ設置を積極的に行っており、今後も推進していく予定である。

街路樹の根上がりで歩道がデコボコになり高齢者がつまづき危険。落ち葉も近所の方が清掃されているが、市の清掃が適切な時期に行われるとよい。

- ・春日浦と北浜の街路樹（クスノキ）が根上りを起こして歩道がデコボコになっている。高齢者がつまづくなど危険。
- ・街路樹の落ち葉は近所の方が清掃をしているが、市の清掃がもう少し良いタイミングで行われるとよい（清掃のタイミングが遅い。落ち葉が多い時期に行なってほしい）。

民間企業では災害時に避難場所を提供してくれるだけでなく、商品を提供してくれるところもある。災害時には民間企業を頼ってもよい。

- ・災害時の避難場所は公共施設ばかりでなく、民間企業が場所を提供してくれることもある。形原南保育園近くの三共精機さんは市と提携している。
- ・スーパーや自販機などでも、災害時に商品を提供してくれる企業もあって民間も頼りになる。

天神川の水門に砂がたまり、堤防を乗り越えることがある。堤防は老朽化している。

- ・天神川の水門に砂がたまって、水門が閉まらなくなっている。満潮になると溜まった砂が堤防を乗り越えてくるようなことも起きている。堤防を高くしてほしいという要望を伝えたら既に計画されているという話を聞いている。
- ・堤防がひび割れするなど、老朽化している。

⑦ 利便性の向上

形原中学校と形原保育園の間の道は送迎時に混雑して危険。隣接するメリットがあるのでアクセスの課題解決を求めたい。

- ・形原中学校と形原保育園の間の道は送迎で大変混雑して危険である。機能として中学と保育園が近いことのメリットはあるので、アクセスの課題解決を求めたい。

「車や人の動線、アクセスの視点」は大事な課題である。

- ・車や人の動線、渋滞やアクセスについて問題が大きい
- ・「車や人の動線、アクセス」について、「⑦利便性」に項目を設けるか、新たに⑨として追加するかはわからないが、大事な課題である。

⑧ 効率的な施設配置

形原駅前には暗く送迎時の駐車場所もなく危険。元支所の跡地利用を検討してほしい。

- ・形原駅前には暗くて送迎の車を止める場所も少なく危険。子どもの送迎を考慮した跡地利用を検討してほしい。
- ・形原駅北側の元支所（旧西部防災センター）跡地について、跡地利用を考えていく必要がある。

⑨ 追加すべき項目

地域の伝統や行事を継承する場としての役割を評価する項目を追加してはどうか。

- ・地域の伝統や行事を次の世代に継承する場としての評価の視点を新しく加えてもいいのではないか。

障がい者、外国人など社会的弱者の視点があるとよい。

- ・障がい者、外国人の方々のサポート、支援の機能が必要である。
- ・弱者、障がい者の視点とかも知ればよい。

2. 課題解決のための具体策について

① 多様な人々との交流

インターネットの活用、公民館のホームページの改善など、情報発信と共有の仕組みづくりを積極的に行うとよい。

- ・ネットの活用、公民館のホームページなどの改善等、情報発信を積極的に行うと良い。
- ・効率的な情報交換ができ、大勢の人に情報が伝わる状況をつくることが大事。
- ・若い人の公共施設の利用促進の点からも、情報発信と共有も仕組みづくりが重要である。

調理施設など「つくる」場があることで、交流が生まれるのではないか。

- ・調理施設のある空間は「つくる」ことを通して交流が生まれるのではないか。
- ・調理施設があると良いが、なければならないほどの工夫もできる。料理など「つくる」ことを通した交流が良いのではないだろうか。

公民館は利用手続きの簡略化や利用者ごとのコアタイムの設定など、気軽に利用できる仕組みづくりをするとよい。

- ・公民館の学習室は予約しないといけなかったり、利用時間が限られるなど、利用しにくい状況にあるので、手続きの簡素化、気軽に利用できる仕組みづくりをするべきではないだろうか。
- ・多世代の交流は大事だけれど、お年寄りがたくさんいる所に子供が入りにくい面もある。一部、お年寄りの時間、学校後の学生の時間、夜は中高生のたまり場といったように、コアタイムを設定する考え方もあるのではないだろうか。

公民館にカフェ、コンビニ、Wi-Fi、ドリンクバーなど、気軽に立ち寄り集まれる機能があると良い。

- ・公民館のなかに雑談ができるスペース、カフェスペースなどがあると交流が促進される。
- ・公民館や児童館などに多様な人が集まるためには、通信環境の利便性向上（Wi-Fiの整備）やカフェ、コンビニ等が設置されるとよい。
- ・かつて公民館に冷房と冷水器があって、部活帰りの中学生などもよく立ち寄っていた。Wi-Fiやドリンクバーもそんな感じで必要かもしれない。
- ・公民館にWi-Fi環境を整えてほしい。

学校と地域の方々がスポーツや文化活動など一緒にできる場ができると、交流を深めることができる。

- ・小中学生が放課後や休日などに公共施設に出向くような交流が起けると良いのではないだろうか。
- ・地域の方々と小中学生がスポーツや伝統文化を通じて交流を深めることができると良い。

公民館が利用者の希望する講座や教室を募集するなど、ニーズを把握した上で、講座づくりをすると利用促進になるのではないか。

- ・情報共有の仕方のアイデアとして、利用者が公民館でやってほしい講座や教室を募集し、公民館が講師を探す、といった方法がある。ニーズから発信して講座が埋まるとより公民館の利用促進にもなるのではないだろうか。
- ・利用する人のニーズをしっかりと把握することが大事である。

多世代と一緒に活動できる名所をつくるとよい。

- ・ひまわり広場やさつまいも畑など、多世代が取り組むことのできる活動場所としての名所をつくると良いのではないだろうか。

地区集会所の活動メニューや駐車場の整備をし、利用促進を図る。

- ・地区の集会所に対して活動メニューの充実や駐車場の整備等を行うことで使い勝手を良くして利用促進を図る。

② 子育てしやすい環境づくり

小学校や中学校に、保育園を複合することで親にも子にも良い影響が出るのではないか。

- ・教育施設を複合することで、親にとっても、子供にとってもいい影響が出るのではないだろうか。小学校や中学校に、保育園を複合するのは子育て環境上とても良い。

延長保育や低年齢児の預かりなど、保育園のサービスが充実するとよい。

- ・延長保育や低年齢児の預かりなどが充実するとよい。

子育て世代の交流促進を図る場があるとよい。西部子育て支援センターで行っているランチ会を児童館などでも実施できるとよい。

- ・子育て世代の交流促進を図るような場があるとよい。豊橋の「こども未来館ココニコ」は好事例である。
- ・支援センターで行っているランチ会を児童館等でもやれたらよい。

出産助成や保育園の入園条件の見直しなど、子育てへの支援が充実するとよい。

- ・出産助成があると良いのではないだろうか。
- ・保育園の入園条件の見直しで、園に入りやすくなるとよい。現在、同居する祖父母の収入なども条件に含まれているようだが、祖父母の収入は入園と関係ないのではないか？

ちびっこ広場の維持管理で、高齢者など地域の人が活躍できるとよい。

- ・ちびっこ広場の維持管理に、高齢者など地域の人が活躍できるようにするとよいのではないか。

一色不燃物最終処分場の跡地に子どもたちが利用できる公園を作ってほしい。

- ・形原の北エリアは、地区の中心部から遠く、公共施設が何もないので一色処分場の跡地に子ども達が利用できる公園とかを作ってほしい。

③ 子ども達の居場所づくり

全天候型の屋根のある施設があるとよい。

- ・全天候型の屋根のある施設があるとよい。(双太山公園あたり)

公民館や児童館に、子ども向けの講座やプログラムの充実を図る。

- ・公民館や児童館において子ども向けの講座・プログラムの充実を図る。

子どもの居場所として地区集会所をもっと活用できるとよい。

- ・子ども達の居場所づくりとして地区集会所をもっと活用できれば良い。

④ 地域の活性化

公民館の利用者を増やすために、一緒に作業しながら地区行事の担い手を育てる講座を開催したり、利用の規制を見直すことが必要ではないか。

- ・公民館のプログラムは趣味の会などが多いが、地区の行事の担い手を育てたり、一緒に門松をつくったりする講座にすれば、新しい人も参加しやすい。
- ・営利や個人利用など、規制がゆるくなることで、公民館の空き（空室率）をなくすことにつながるのではないだろうか。

伝統文化は交流が生まれやすく、小さい範囲固有の伝統も大切にしたい。ただし、伝統や祭りは新しい時代にあった形で捉えないと続いていかないのではないか。

- ・手筒花火やちゃらぼこなど、伝統文化などは共有できることとして、交流が生まれやすいのではないだろうか。
- ・「エンヒキ」など区や小さい範囲での地域固有の伝統も大切にしたい。
- ・新しい時代にあった形で、伝統や祭りを捉えていかないと、続いていかないのではないだろうか。

公共施設に景色の良いスポットを設ける。

- ・公共施設の中に“パノラマルーム”（景色のよいスポット）を設ける。

サイクリングロードを整備すれば、安全対策にもつながる

- ・高校生や大学生向けにサイクリングロードを整備する。（安全安心対策にもつながる）

名鉄西蒲線を観光要素として活用できないか。

- ・名鉄西蒲線を観光要素として活用していく。レトロ風の駅や赤い電車をマニア向けにうまく活用できないか。
- ・電車好きの人達向けに撮影スポットの整備。

形原のグルメスポットと連携して活性化できないか。

- ・形原のグルメスポット（おいしいパン屋さんとか）と抱き合わせで活性化できないか？

行政と地域が話し合える協働の場があるとよい。住民側の組織化も必要だろう。

- ・行政と地域住民が話し合って課題に向けて協力しあう協働の場づくり（対話の場）があるとよい。
- ・地域の課題解決にとりくむ地域側の組織がないと、行政側も依頼をすることができない。住民側の組織化も必要だろう。・・・「お助け隊」など組織化されている地区もある。子育て世代は仕事と家庭とで忙しいので、高齢者が力を貸そうという機運もある。

⑤ 高齢者の活躍

物づくりや伝統の継承などを通して、お年寄りが幼児と一緒に遊ぶ状況ができるとよい。

- ・お年寄りが幼児と一緒に遊ぶ状況ができると良い。知識の交流、物づくりの交流、伝統行事を伝えるなどのボランティアができる場ができると良いのではないだろうか。

ちびっこ広場、公園、花壇の維持管理や小学校に花や野菜の苗を植えるなど、高齢者が活躍できる取り組みがあるとよい。

- ・ちびっこ広場や公園管理、花壇の維持管理（花植え会）など市民が管理していく仕組みが高齢化や会員減少などで機能しなくなっている。社会と接点を求めている高齢者の活躍の場として改めて仕組みをつくっていけるとよいのではないか。
- ・元気で暇のあるお年寄りたちが何かボランティアをしてやりがいや生きがい、楽しみを作れるように、例えば花や野菜の苗などを育てて、小学校へ植える等の取組ができると良い。
- ・年寄りが活躍できるようなことがあるとよい。

地区集会所に高齢者向けメニューが充実し、駐車場が整備されるとよい。

- ・地区集会所において高齢者向けの活動メニューが充実していたり、アクセス面において駐車場等が整備されているとよい。

⑥ 安全・安心

双太山公園に全天候型施設があると災害時にも利用できる。

- ・双太山公園に全天候型施設があると災害時にも利用できるのではないか。

寺社は安全な場所に建てられており、公共施設の安全性を考える上で、寺社の近くに建てることを検討するのはどうか。

- ・歴史的に寺社は安全な場所に建てられている。公共施設の立地を考える上で寺社の近くを検討する等の視点もあるのではないだろうか。

⑦ 利便性の向上

保育園は車での送迎がほとんどなので、1か所に集めて駐車場を充実するとよい。

- ・保育園は車での送迎がほとんどになっている。車ならば1か所に集めて駐車場などを充実させた方がいいかもしれない。

施設配置は、まちから離れていても車利用を見越して駐車場を広く取れる場所にするという考え方もあるのではないか。

- ・施設配置を考える上で、まちから離れていても、車利用を見込んで駐車場を広くとれる場所の方が効率的であるという考えもあるのではないだろうか。例えば安城児童センターの立地が参考になる

双太山公園周辺に駐車場を整備してはどうか。

- ・あじさい祭りなど人が多く集まるイベント時には周辺道路の渋滞が酷くなる。双太山公園あたりに駐車場を整備してはどうか。

形原公民館を駐車場にし、公民館を高台に移転するのはどうか。

- ・潮干狩りの駐車場不足を解消するため、形原公民館を（形原保育園あたりの高台に）移転させて更地にする。（公民館は海に近く津波の危険等もあるため高台に移転）

形原北小学校のグラウンドにロータリースペースがあれば形原北保育園の送迎時に転回ができる。

- ・形原北保育園は車での送迎時に帰りがバック走行になってしまう。形原北小学校グラウンドにロータリースペースがあれば転回することが出来て、アクセスが改善される。

公共施設にコンビニが併設されると利便性が高く、利用率も上がるのではないか。

- ・コンビニ付き公民館やコンビニ付き公共施設だと利便性が高く、利用率も上がるのではないだろうか。

機能が複合化したり近接すると渋滞や利用のバッティングが生じるので、機能ごとのニーズや利用時間帯の分散などを分析する必要がある。

- ・機能が複合したり、立地が近接すると、利用が集中する時間帯などが出てきて、渋滞等の問題や利用のバッティングがおきるため、機能ごとのニーズや時間帯の分散などをしっかり分析するべき。

公共施設で飲食ができるようになり、カフェやドリンクバー、地元名産が食べられるようになるとよい。

- ・公共施設（特に児童館）にドリンクバーやカフェの設置の他、地元名産のエビせんなどが食べられるとよい。
- ・公民館で飲食できないことが利用の障壁になっている面があるので、お弁当がたべられたり、フリードリンクなどがあつたりすると良いのではないだろうか。

空き家が増えているので、公共施設として整備するのはどうか。

- ・空き家が増えていることが問題になっている。空き家を整備して公共施設にするのもありなのではないだろうか。

高齢者が公共施設や形原地区外へのアクセスにコミュニティバスを活用したい。

- ・コミュニティバスを活用して高齢者の公共施設へのアクセスに利用する。
- ・形原地区外への移動のサポートが充実するとよい。くるりんバスは地区内だけに限られているが地区外への移動の連結がうまくいくようになるとよい。名鉄バスが運行しているので競合しないように配慮されていると思うが、うまく活用できるようになるとよい。
- ・イベントや必要な時に利用できる交通手段としてコミュニティバスを活用したい。

⑧ 効率的な施設配置

形原支所の跡地は地元の博物館、高齢者の居場所、公園、住民向け行政サービス機能などがあるとよい。

- ・形原支所跡地の利用については、地元の「博物館」（形原のロープ工業にちなんだもの）、高齢者の居場所づくり、オープンスペースとして公園的なものがあるとよい。また、駅前の利便性を活かして住民向けの行政サービス機能があるとよい。

3. その他

新型コロナウイルス対策における公民館の利用ルールに違いがあるのはなぜか。

- ・公民館が地域によって体操が禁止されているところ、許可されているところなど、新型コロナ対策にルールの違いがあるのは、なぜか？ルールは合わせたほうが良いと思う。